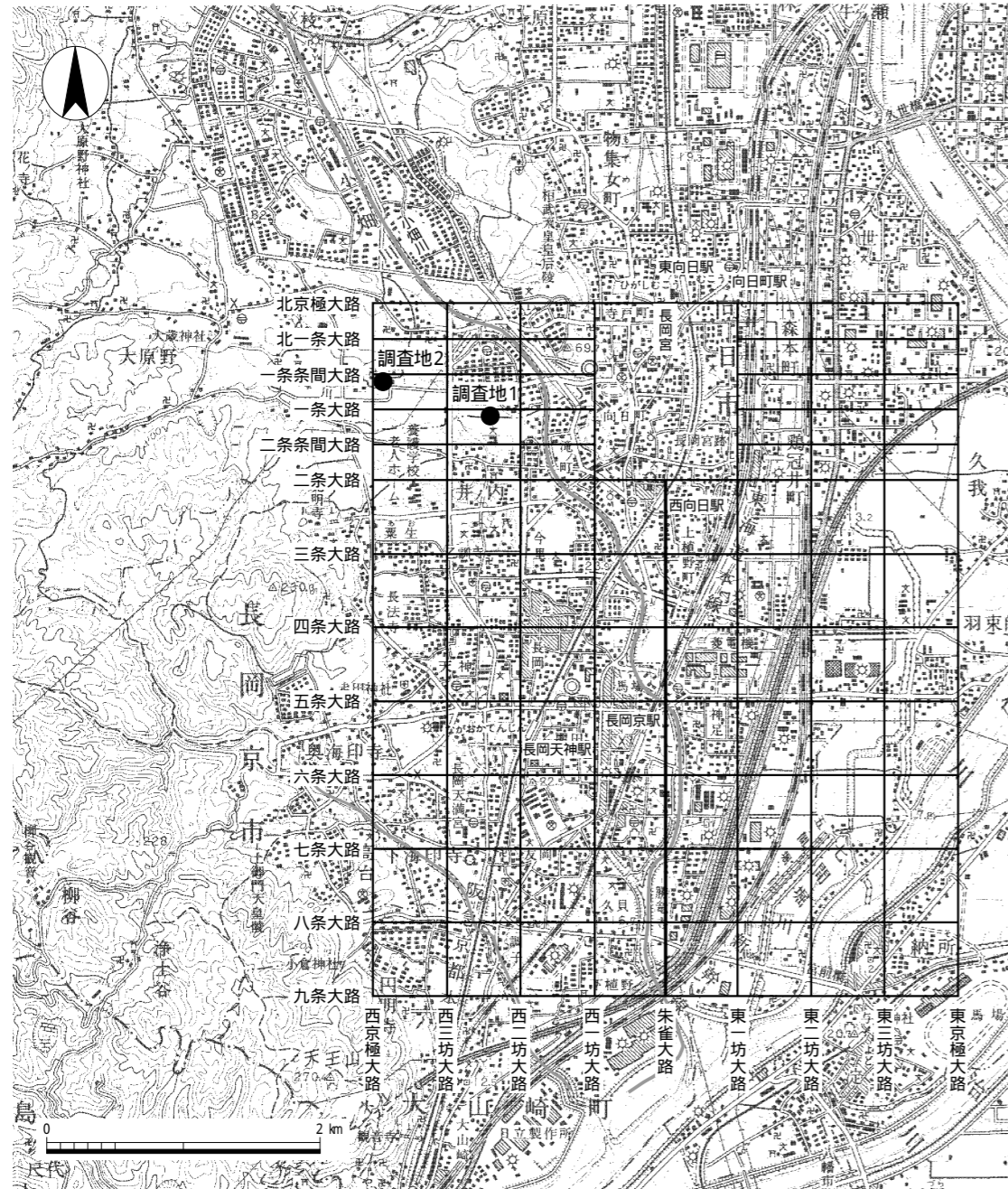


長岡京右京二条三坊八町・九町 発掘調査現地説明会資料（調査1）

場 所 京都市西京区大原野上里南ノ町地内
期 間 2006年6月～継続中
調査面積 約1800㎡
調査主体 財)京都市埋蔵文化財研究所



2006年9月2日（土）

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

1 はじめに

今回の調査地は長岡京の北西部にあたり、長岡京右京二条三坊八町・九町の北端に近い部分にあたります。

調査は、2002年度から継続して行なっている道路新設工事（伏見向日町線）に伴うものです。今年度は、昨年度の調査地である文化センター通り（通称）から東側の道路新設予定地のA区・B区に引き続き、C区を調査をしてきました。

2 周辺の調査

昨年度実施した調査（A区・B区）では、一条大路南側溝と築地状施設及びその内溝を発見しました。また、その南側では複数の掘立柱建物や井戸などがみついています。しかし、西三坊坊間西小路については、河川跡となっていました。

また、調査地の南東に位置する長岡第十小学校内の調査では、奈良時代から長岡京期の川や、大型の建物などが多数発見されており、その東側の調査では、西二坊大路の側溝が見ついています。

3 発見した遺構

九町 今回の調査は九町の東部分にあたります。ここでは、西の隣接調査地に続いて一条大路南側溝を見つけました。しかし、西の隣接調査地にあった築地状施設とその南側の内溝は見つかりませんでした。また、この南側にも建物はありませんでした。

西三坊坊間小路 現在の農道の両脇に沿って、南北の溝を2条発見しました。どちらも幅0.8m、深さ0.2m前後です。溝心々間の距離は8.3m前後です。

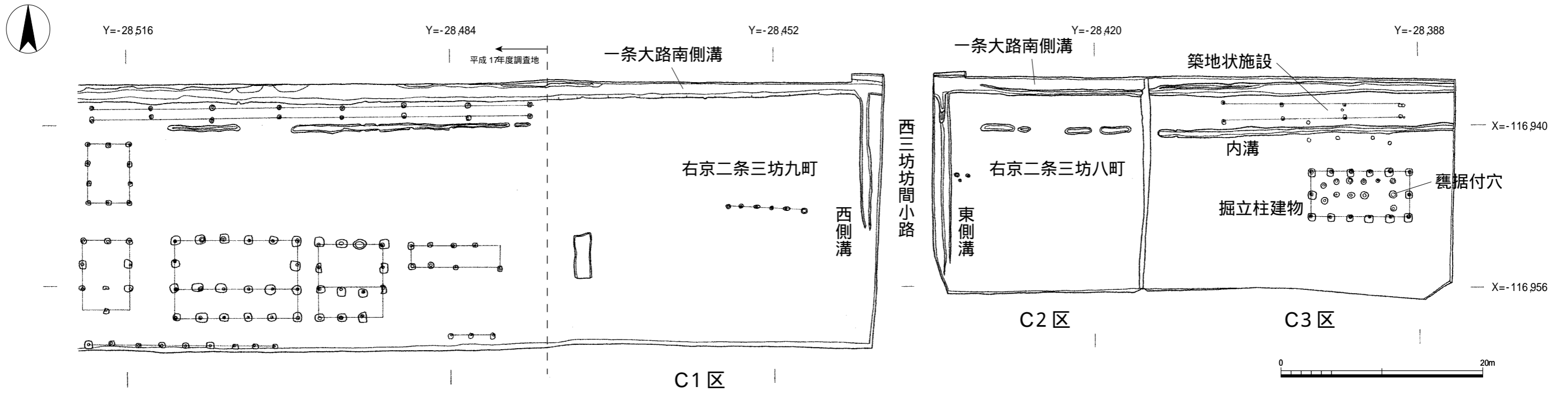
八町 今回の調査地は八町の西部分にあたります。ここでは、一条大路南側溝を発見しました。九町で見られた築地状施設と同じものを調査地の東部分で見つけました。また、その南側で掘立柱建物を1棟発見しました。規模は東西5間、南北2間で柱間1.8mです。建物内部の北寄りには径0.4～0.7m、深さ0.3m前後のすり鉢状の穴が12基並んでいます。これらは前回の調査例からも貯蔵用の甕を据え付けた痕跡と考えています。

4 まとめ

前回調査に続き、調査地全域で一条大路の南側溝を検出しました。

前回調査で検出していた南側溝に伴う築地状施設と内溝は、建物の見つかった八町の東部分のみで見つかりました。

調査区をまたいで見つかった南北溝は、周辺の調査成果から、西三坊坊間小路の両側溝と判断しました。また、この小路は現代の農道に踏襲されていることもわかりました。



遺構平面図 (1: 400)



写真1 C区 長岡京期全景 (西から)



写真2 C3区 掘立柱建物 (西から)



写真3 一条大路・西三坊坊間小路 (南西から)

長岡京右京一条四坊十四町 発掘調査現地説明会資料（調査2）

場 所 京都市西京区大原野石見町地内
期 間 2006年7月～9月8日（予定）
調査面積 約600m²
調査主体 財)京都市埋蔵文化財研究所

1 はじめに

この調査は道路新設工事（中山石見線）に伴う発掘調査です。2002年度は調査地の南側を、2004年度には北側を調査し、縄文時代～近世の遺構や遺物を発見しています。今回もこれらの遺構・遺物の検出を目的に発掘調査を実施しました。

2 周辺の調査

調査地のある大原野石見町は、旧石器時代～古墳時代にいたる大原野石見町遺跡に含まれ、長岡京期では長岡京右京一条十四町にあたります。これまでに実施した調査では、縄文時代～古墳時代の流路、古墳時代の竪穴住居・掘立柱建物、長岡京の一条条間南小路・坊間の南北両側溝・掘立柱建物、鎌倉時代から室町時代の集落などが発見されています。

3 発見した遺構

今回の調査では、江戸時代、室町時代末期から江戸時代初頭、長岡京期、古墳時代前期の遺構を発見しました。

江戸時代

井戸1～4 井戸1～3は素掘りの井戸で、いずれも直径約2.0mです。井戸3からは江戸時代後期～明治時代の陶磁器がたくさん出土しました。また井戸4は円形の石組で、直径1.5m・深さ0.5mあります。

土壇5 調査区の南端で発見した長方形の土壇で、中央に信楽焼の甕が埋められていました。半地下式の室跡と考えられます。

室町時代末期～江戸時代初頭

建物6 調査区北部で発見した掘立柱建物で、柱間は4間×3間（東西4.8m、南北3.9m）あります。

長岡京期

建物7 調査区東側で柱穴を4基、3間分（南北約5.2m）発見しました。掘立柱建物の西側柱列と考えられ、東は調査区の外に広がっています。

柵8 建物7の西側に平行に並ぶ南北方向の柵で、建物7に伴う柵と考えられます。

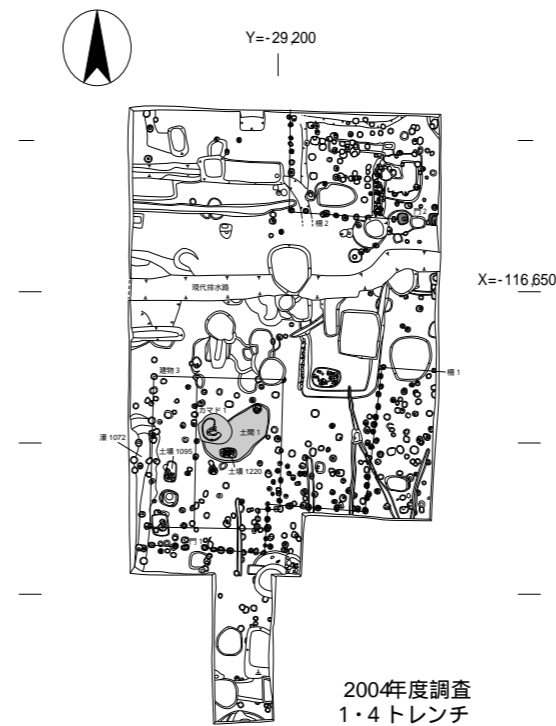
古墳時代

土壇9～11 調査区北半で、直径約0.3mの土壇を3基検出しました。土壇には、いずれも土師器の甕が据わった状態で出土しています。時期は古墳時代前期です。

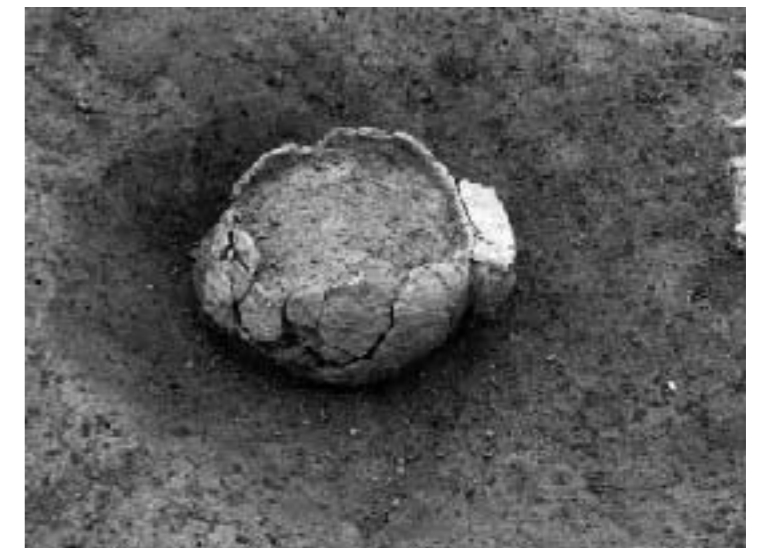
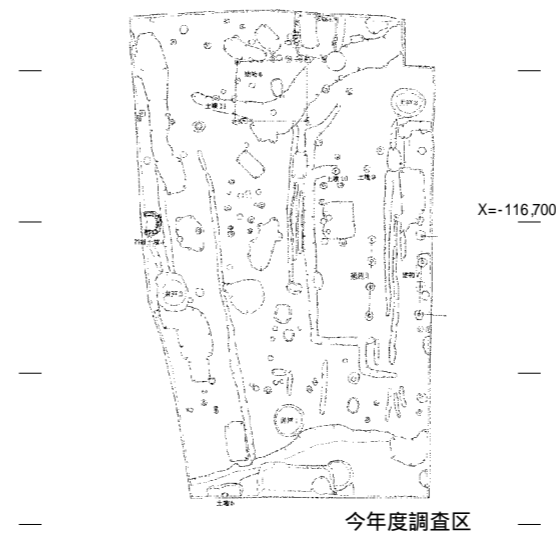
4 まとめ

今回の調査地は、以前に実施した調査区と比較して、中世の遺構があまり見つかりませんでした。これは、当地が微高地状に高く、後世に削平されたためと考えられます。

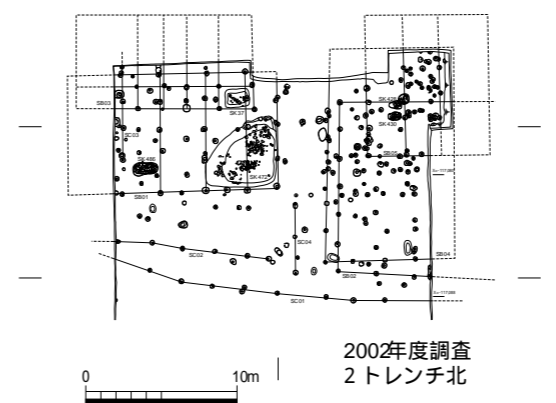
長岡京期の建物が見つかったことは、長岡京の北西辺部まで条坊が整備されたことを物語っていると考えられます。



長岡京期の建物7・柵8（北から）



土壇10から出土した古墳時代の土師器甕（北から）



周辺調査遺構図（1：500）

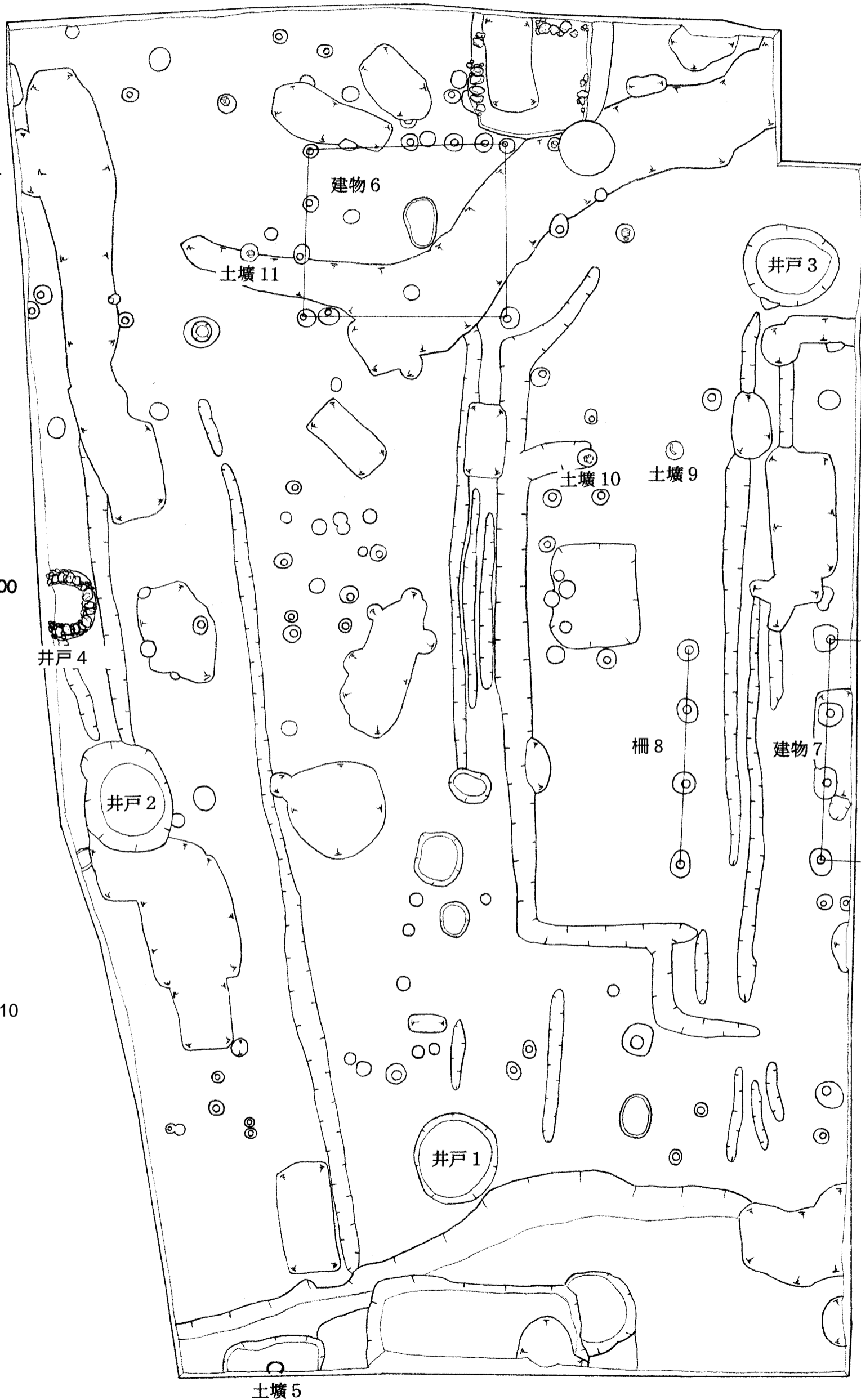
Y=-29,200



X=-116,690

X=-116,700

X=-116,710



遺構平面図 (1 : 100)